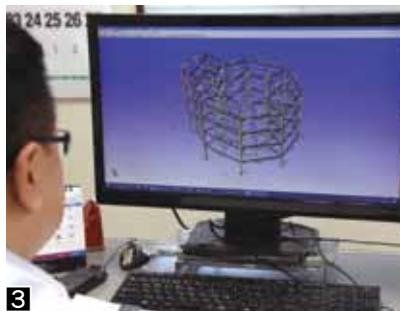


## 株式会社 武末鉄工所

高精度の製造技術で、  
西日本の大型建築物の鉄骨製作を担う



- 1 工場には最新鋭の溶接ロボットを導入。大型の鉄骨でも短時間に製品化することができる（瀬高工場）
- 2 福岡市のホークスタウン跡地に建設される商業施設に使われるという鉄骨の支柱部分（瀬高工場）
- 3 本社設計室のパソコンでは、建物の鉄骨構造を立体的に見ることができる
- 4 大和町塩塚の本社社屋。工場も併設

今回紹介する企業は、建築物の鉄骨の製作から現場での組み立てまでを手掛ける武末鉄工所です。同社は、建築物の鉄骨製作では最高ランクのHグレードに認定されており、九州全域から関東圏まで、大型の商業施設や大学、病院、工場など大型建築物の鉄骨を造っています。

建築会社勤務などで技術を学んだ、武末久伸ひさのぶ会長（74歳）が昭和43年に創業。当時は、主に農業倉庫の建設を手掛けていましたが、平成元年

### 【企業情報】

- 本社所在地＝大和町塩塚 1163
- ☎ 76・1010
- 資本金＝5000万円
- 代表取締役＝武末幸久
- 従業員＝180人



に大和町栄に南野工場を新設したところから、業務を鉄骨製造中心に切り替え、それに対応して設備の機械化を進めます。会長の方針で、他社が受注しないような難しい仕事も積極的に引き受け、宗像ユリックスのアクアドームや大木町の温泉施設アクアスの鉄骨工事を手掛けるなど、実績を作っています。アクアスは海外のデザイナーによる独特の設計だったため、実際の工事は困難を極めたそうですが、見事に完成させ、全国の同業者からも視察が相次いだそうです。このことから、その技術力が業界で評判になり、大手設計会社からの仕事も入るようになります。

現在、工場は本社工場と南野工場、鷹尾工場、瀬高工場、北九州工場の5か所。ロボット溶接機やプラズマ切断機など最新鋭設備を導入しています。これまで県内だけで

も、九州国立博物館やJR博多駅、HAWKSベースボールパーク筑後、イオンモール大牟田など数々の大型建築物の鉄骨製作を手掛けてきました。武末幸久社長（48歳）は「最新鋭の設備が開発されれば、更新し、生産体制の強化につなげていく」と話します。

また、社員教育にも力を入れる同社。9年前に船小屋に研修会館を整備し、新入社員教育はもちろん、資格取得のための教育訓練、安全作業の研修会など定期的に開催し、社員のレベルアップを図っています。

### ●社長のひと言

東京オリンピックの開催や都市の再開発など、今後にも需要が見込めます。そのためにも蓄積された技術を若い社員にしっかり伝え、社会に貢献できる会社づくりを目指します。

【問】市商工・ブランド振興課 企業誘致・ベンチャー支援係 ☎77・8762